

東日本大震災の復興支援への取組み状況の報告

報告日：平成 23 年 8 月 9 日（第 3 報）

支部・部会・実行委員会・登録グループ名

原子力・放射線部会

責任者名 / 報告者名

桑江良明 / 同

取組みの状況（報告済み～7月末までの検討状況、予定等含む）2,000 字以内

1. 中間報告～7月末までの取組みについて

3月11日の東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原子力発電所事故に関連して、部会員の大多数がその所属組織において、冷却安定化、放射性物質拡散防止、避難住民支援等の作業に直接間接に取組んでいる。

部会としては、部会員がそれぞれの立場で職責を全うすることが最重要であると認識している。そのうえで、所属組織の垣根を越えて部会として取組むべき課題を抽出し実施している。

（1）福島避難住民の一時帰宅支援業務

国の原子力災害現地対策本部の指揮の下実施されている「一時帰宅支援プロジェクト」に、日本原子力研究開発機構を通じて参加要請があり、第1陣として7月11日までに部会員10名が参加した。

7/21および8/4に追加募集を行い9月中旬までにさらに8名が参加の予定である。

本プロジェクトには部会として今後も継続的に協力していく。

（2）「第1回東日本大震災復興支援報告会」への参加・報告

7月11日開催の標記報告会において、震災発生からの部会の取組を報告した。

特に、組織に所属する技術士が所属組織を離れて「技術士」の肩書きで国の「一時帰宅支援プロジェクト」に参加するまでの経緯について詳しく報告した。

（3）「福島対応WG」での活動項目検討と継続開催

7月15日に第3回福島対応WGを開催し、今後の活動項目を検討した。

その中で、当部会に対して数多くある「原子力」や「放射線」に関する講演会・勉強会の講師派遣等の要請に対して部会として適切に対応していく必要があるとの認識のもと、「福島第一事故解説チーム（仮称）」を結成することを決めた。

部会員対象にメンバーを募集したところ十数名から参加の意思が示され、現在、専門に応じて「原子力」、「放射線」それぞれについて具体的な「解説チーム」結成、活動に向け準備中である。

「福島対応WG」は今後も2ヵ月に1回程度の頻度で継続開催の予定である。

（4）福島第一原子力発電所事故に対する部会声明文公表と部会報第9号発行

福島第一原子力発電所事故を部会としていかに受け止め、今後いかに対応するかの指針とすべく、またそれを広く社会に示すため、役員によるメール上での議論を踏まえ声明文「東京電力福島第一発電所事故を重く受け止め、それに立ち向かう原子力・放射線部門の技術士」をまとめ、「第1回東日本大震災復興支援報告会」にて配付するとともに部会報第9号（8/1部会HPに掲載）にて公表した。

2. 今後の支部・部会としての取組みについて

*シンポジウム、被災自治体との意見交換、復旧・復興支援調査での活動予定等を記載ください。

(1) 9月21日、日本原子力学会秋の大会(場所:北九州市)のプログラムとして「第3回技術士の集い」を開催予定。部会としての福島対応の「これまでと今後」について議論する。

(2) 9月25日、墨田区主催の避難訓練において、放射線測定実演付き説明会の依頼があり、部会有志6名が対応する予定。

(3) 福島県富岡町「復興ビジョン策定委員会」への参画の打診があり、対応内容や要員について検討中。

(4) 【放射線Q&Aリンク集】部会HPへの掲載準備

一般市民向けの放射線に関する情報提供の第2弾として「放射線Q&Aリンク集」の制作にかかっている。

(5) 部会員の活動記録

現在の喫緊の作業に従事している部会員はその職責を全うすることを最優先するとともに、後にそれを集約できるように、出来る限りその活動記録を残すようお願いしている。

以上

外部公表が可能な東日本大震災取組み報告会等の資料がありましたら添付ください。

資料 1 部会・支部での東日本大震災取組み報告会資料

資料 2 部会・支部での東日本大震災取組み報告会のパワーポイント 等